２０１８年（平成３０年）５月２３日　水曜日

デーリー東北　１２面　掲載

青森県

春季高校野球

第3日

4強決まる

春季青森県高校野球選手権第3日は22日、八戸長根、六戸メイプルの2球場で準々決勝4試合を実施した。

八学光星は昨秋の県大会を制した青森山田と昨夏の県大会決勝以来の再戦を果たし、8—1でコールド勝ちを収めた。大湊は弘前工にサヨナラ逆転負けを喫し、百石は青森に11—8で敗れた。三本木は昨秋準Vの弘前東に完封負けした。

大会第4日は26日、八戸長根で準決勝2試合を行う。

（取材班）

青　森×弘前東

光　星×弘前工

きのうの結果

▽準々決勝

青　森11—8百　石

弘前東9—0三本木

（7回コールド）

八学光星8—1青森山田

（7回コールド）

弘前工7—6大　湊

26日の試合

▽準決勝

【長根】

青　森—弘前東（10・00）

八学光星—弘前工（12・30）

光星 投打がっちり

準々決勝

青森山田	0	0	0	0	0	1	0	1
八学光星	0	0	0	1	3	0	4x	8

（7回コールド）

（青）堀田、東谷、今、三木、小牟田—工藤

（八）福山—秋山

▽二塁打　下山、東（八）

▽捕逸　工藤（青）

▽試合時間　2時間4分

（球審＝小松、塁審＝合川、花松、小田）

【評】八学光星は四回に先制した後、五回に2死満塁から東の右越え二塁打で3得点。七回に4安打と2犠打で4点を追加して勝負を決めた。投手福山は1失点に抑え、好投した。青森山田は決定打を出せず、5投手で継投するも流れを変えられなかった。

会心の一打に笑顔

○…八学光星の下山昂大が、四回2死二塁の好機で中越えの適時二塁打を放ち、先制点を決めた。下山は「自信を持って、真っすぐに打ち返した」と会心の一打に笑顔を見せた。

弘前四中出。自分を試そう—と門をたたいた強豪校で、2年生ながらレギュラーを勝ち取った。「自分には打撃しかない」と自負するだけに、先制点の直後は、塁上で大きくガッツポーズし、喜びを爆発させた。

26日の準決勝に向けては「一つ山を越えたが、気持ちを切り替えて試合に挑みたい」と力を込めた。

【三本木】		打	安	点	振	球
⑦	鈴木隆	3	1	0	0	0
④	野月	2	0	0	0	0
⑧	大池	3	1	0	1	0
②	泉	2	0	0	1	1
⑨	平尾	3	1	0	1	0
⑤	外山	3	1	0	1	0
③	沖澤	2	0	0	1	0
3	柳沢	1	0	0	0	0
①	長谷地	1	0	0	1	0
1	矢ケ崎	1	1	0	0	0
1	向中野	0	0	0	0	0
H	畠山	1	0	0	0	0
⑥	下田	2	1	0	0	0
犠盗失併残	1 0 0 0 5	24	6	0	6	1

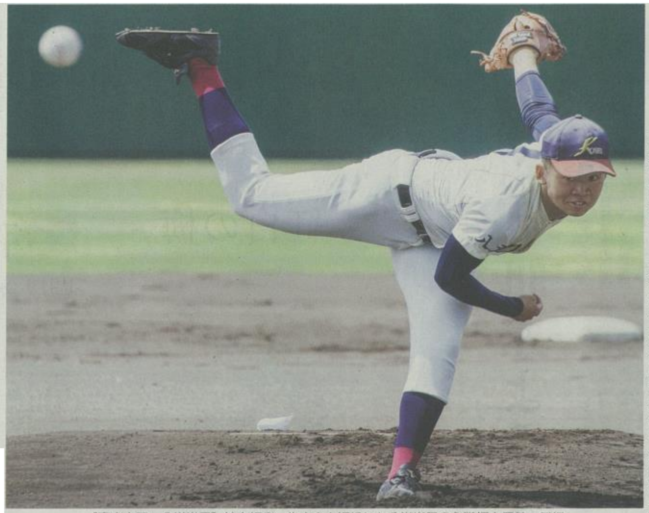
【弘前東】		打	安	点	振	球
⑦	松山	4	1	1	1	0
④	種市	3	2	0	1	1
⑥	長浜	2	1	1	0	2
⑧	桜庭	3	2	2	0	1
③	細川	4	3	2	0	0
⑨	須藤涼	3	0	0	0	0
⑤	木立	3	1	0	0	0
5	尾崎	0	0	0	0	0
①	澤田	2	2	2	0	0
1	須藤大	0	0	0	0	0
②	齋藤	2	1	1	0	0
犠盗失併残	2 0 2 0 5	26	13	9	2	4

投手	回	打	安	振	球	失
長谷地	2 2/3	14	9	1	1	7
矢ケ崎	3	13	4	1	1	2
向中野	1	5	0	0	2	0
澤田	6	23	6	6	1	0
須藤大	1	3	0	0	0	0

【青森山田】		打	安	点	振	球
④	上崎	4	1	0	0	0
⑧	白鳥	2	1	0	0	1
③	赤平	3	1	0	1	0
⑦	中澤	3	0	0	0	0
⑤9	佐々木優	3	1	1	1	0
⑨	佐藤雅	2	0	0	0	0
H5	長尾	1	0	0	0	0
⑥	伊藤	3	1	0	1	0
②	工藤	2	1	0	0	1
①	堀田	1	0	0	0	0
1	東谷	0	0	0	0	0
1	今	0	0	0	0	0
H	須藤	1	0	0	1	0
1	三木	0	0	0	0	0
1	小牟田	0	0	0	0	0
犠盗失併残	1 1 0 0 6	25	6	1	4	2

【八学光星】		打	安	点	振	球
③	近藤俊	3	1	0	0	1
⑥	武岡	3	1	0	1	1
⑧	長南	3	1	0	1	1
⑦	東	2	1	3	0	0
⑨	矢野	3	1	1	1	0
⑤	下山	4	2	2	0	0
④	島袋	3	0	0	1	0
②	秋山	3	2	2	0	1
①	福山	1	0	0	0	1
犠盗失併残	4 0 0 1 7	25	9	8	4	6

投手	回	打	安	振	球	失
堀田	4 1/3	18	2	4	2	2
東谷	0 1/3	5	2	0	2	2
今	1 1/3	5	0	0	1	0
三木	0	2	1	0	1	2
小牟田	0 2/3	5	3	0	0	2
福山	7	28	6	4	2	1



【青森山田—八学光星】被安打6、失点1と好投した八学光星の主戦福山優希＝長根

【青森山田—八学光星】八学光星4回2死二塁、下山昂大が中越えの適時二塁打を放ち、先制する

大一番 宿敵に快勝

ハイライト

エースが粘り、打線が勝負どころで畳み掛けた。八学光星が、一昨年の秋季から県大会を4季連続で制した青森山田を8—1で下し、準決勝に進出。気迫のこもった投球でチームを勝利に導いた主戦の福山優希は「リベンジをしたいと思っていた。勝てて良かった」と喜んだ。

「夏の決勝だと思って戦え」。試合前日、仲井宗基監督からハッパを掛けられ、気合十分で試合に臨んだ光星ナイン。先発の福山は「単打も許さず、抑える」と強気でマウンドに立ち、かつて苦しんだ相手を次々に打ち取った。

打線は、序盤こそ青森山田の先発・堀田賢慎を捉え切れずに凡退したが、四回に下山昂大の適時打で先制。五回には二死満塁で主砲の東健太郎が走者一掃の適時二塁打を放つなど、勝負強さを発揮した。

この日、東は打点3に加えて2犠打で好機を演出し、勝利に貢献。「長打を狙い過ぎないことも大事。4番の役目を果たせた」と活躍に納得の表情だった。

終わってみれば、大一番をコールド勝ち。ただ、選手に慢心はない。「今日の勝ちは、今日で終わり」と福山。強豪を撃破し、2016年夏以来の県大会制覇に照準を合わせた。

（金濱千優希）

デーリー東北新聞社提供